



Y.Hatanaka

THE KEISEI HAI

第65回 京成杯 (GⅢ)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 41,000,000円 16,000,000円 10,000,000円 6,200,000円 4,100,000円
付加賞 497,000円 142,000円 71,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 馬齢重量

2025.1.19 中山 小雨・良 芝2000m (国際) (特指)

着順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	②	ニシノエーゼント	牡	3	57	津村明秀	1:59.9	10-10-11-6	35.4	472(+2)	49.4⑩	千葉直人(美浦)	110
2	⑩	ドラゴンブースト	牡	3	57	丹内祐次	クビ	8-8-7-2	36.0	470(-2)	17.3⑦	藤野健太(栗東)	109
3	⑤	ミントランザット	牡	3	57	田辺裕信	½	14-14-14-12	34.9	468(+4)	29.6⑨	杉山佳明(栗東)	108
4	⑨	キングノジョー	牡	3	57	C.ルメール	½	3-3-3-1	36.5	448(+4)	3.1①	田中博康(美浦)	107
5	⑭	パーティハーン	牡	3	57	戸崎圭太	1¼	8-9-9-10	36.2	476(+4)	3.7②	友道康夫(栗東)	
6	⑪	マテンロウムーブ	牡	3	57	横山典弘	1	12-12-12-12	35.8	504(+12)	14.2⑤	松永幹夫(栗東)	
7	⑩	シマサンブラック	牡	3	57	佐々木大輔	アタマ	10-10-9-6	36.3	482(+18)	132.5⑪	蛭名正義(美浦)	
8	⑥	センツブラッド	牡	3	57	R.キング	¾	5-5-4-2	37.0	458(-2)	19.9⑧	斎藤崇史(栗東)	
9	③	パッションリッチ	牡	3	57	菅原明良	アタマ	13-13-12-12	35.9	478(+6)	67.6②	久保田貴士(美浦)	
10	⑧	ゲルチュータル	牡	3	57	三浦皇成	7	7-7-7-6	37.9	534(+14)	5.3③	杉山晴紀(栗東)	
11	⑦	コスモストーム	牡	3	57	秋山稔樹	2½	5-5-4-10	38.5	502(+4)	77.8⑬	北出成人(栗東)	
12	④	インターボーザー	牡	3	57	斎藤 新	2½	3-3-4-6	38.9	500(+14)	38.1⑯	高野友和(栗東)	
13	①	タイセイリコルド	牡	3	57	石橋 脩	1½	2-2-1-2	39.9	486(+16)	15.0⑥	小栗 実(栗東)	
14	⑤	ガルダイア	牡	3	57	杉原誠人	ハナ	1-1-2-2	39.9	482(+12)	8.6④	国枝 栄(美浦)	

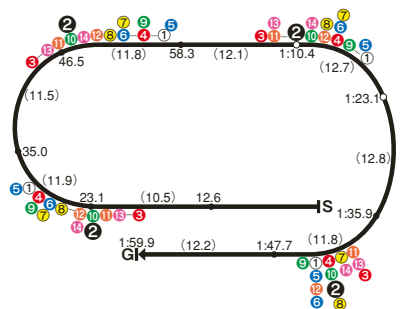
単勝②4,940円(11¼%) 複勝②960円(10¼%) ②490円(6¼%) ③980円(11¼%) 枠連②-⑦10,230円(27¼%)

馬連②-⑩35,970円(64¼%) ワイド②-⑩7,430円(62¼%) ②-③9,500円(69¼%) ③-⑩5,490円(51¼%)

馬単②-⑩77,110円(128¼%) 3連複②-③-⑩209,730円(275¼%) 3連単②-⑩-③1,727,970円(1,670¼%)

5重勝①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩的中なし 対象競走：中山9R／中京10R／中山10R／中京11R／中山11R

(キャリアオーバー：449,023,820円)



通過タイム：600m 800m 1000m
35.0 - 46.5 - 58.3 上り：800m 600m
49.5 - 36.8

アラカルト

- ・津村明秀騎手は京成杯初勝利。JRA重賞は通算19勝目
- ・千葉直人調教師はJRA重賞初勝利
- ・イスラポニータ産駒はJRA重賞通算6勝目
- ・単勝4,940円、馬連35,970円、ワイド9,500円、馬単77,110円、3連複209,730円、3連単1,727,970円は各方式別における本競走の最高払戻金額

ニシノエージェント Nishino Agent

牡 黒鹿毛 2022.3.4生
北海道新冠町 カミイスタット生産
馬主・西山茂行氏 美浦・千葉直人厩舎
馬名意味・冠名+秘密業務で働く者

マルバイユIRE系 F9-I

イスラボニータ 黒鹿毛 2011	フジキセキ 青鹿毛 1992	サンデーサイレンスUSA ミルレーサーUSA
	イスラコジーンUSA 鹿毛 2002	Cozzene Isla Mujeres
ビクトリアスマイル 黒鹿毛 2016	ノヴェリストIRE 黒鹿毛 2009	Monsun Night Lagoon
	ジターナ 青鹿毛 2006	ダンスインザダーク マルバイユIRE

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA S3×M4

INTERVIEW

上井武光代表(カミイスタット)

仕事の励みにもなります

母馬はジェイエス繁殖馬セールで購入しました。その時に受胎していたのがこの馬です。生まれた時から男馬らしい、しっかりとした馬体でいい雰囲気も持っていました。素直な性格で、手のかからない仔でした。今回はこの馬に向けたレース展開だったとはいえ、自分の牧場からクラシックへ進めるような馬が出てくれたことは嬉しいですし、仕事の励みにもなります。



Photostud

新馬戦の2着を皮切りにしばらく惜敗の足踏みを重ねた本馬だが、当初の先行から徐々に脚質の幅を広げ、デビュー4戦目に初勝利。余勢を駆って重賞に挑んだこの日は、ペースを見越して末脚勝負に構えた鞍上の判断も奏功し、展開も追い風に「出世レース」を鮮やかに差し切った。前2年間の勝ち馬と同様、今後は皐月賞へ直行。父イスラボニータとの父仔制覇に挑む。

父イスラボニータ

北海道浦河町 有社台コーポレーション白老ファーム生産 中央25戦8勝(皐月賞^{G1}、阪神C^{GII}、マイルズC^{GII}、セントライト記念^{GII}、共同通信杯^{GIII}、東京スポーツ杯2歳S^{GIII}、日本ダービー^{G1}2着)、最優秀3歳牡馬、18年から供用〔代表産駒〕ヤマニンサルバム(新潟大賞典^{GIII}、中日新聞杯^{GIII})、トゥードジボン(関屋記念^{GIII})、ニシノエージェント(本馬)、フルバレイ(ファルコンS^{GIII})、コスタボニータ(福島牝馬S^{GIII})、バトルクライ(すばるS・L、根岸S^{GIII}3着、ユニコンS^{GIII}3着)、シャドウフューリー(リゲルS・L)、オメガリッチマン(京成杯^{GIII}2着)、ビヨンドザヴァレー(ターコイズS^{GIII}2着)

母ビクトリアスマイル

北海道新冠町 村上欽哉氏生産 中央3戦0勝、地方4戦0勝

ユウライナー(21 牝父リアルスティール)中央4戦0勝

ニシノエージェント 本馬(22 牝父イスラボニータ)中央5戦2勝(京成杯^{GIII})

獲得総賞金52,127,000円

(23 牝父リアルスティール)

(24 牝父アドマイヤマーズ)

祖母ジターナ

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央0勝。16年死亡

キングカラカウア(12 牝父キングカメハメハ)中央3勝、地方0勝

アビーム(15 牝父ノヴェリストIRE)中央4勝(フリーウェイS、府中特別)

ビクトリアスマイル(16 前出)

曾祖母マルバイユIRE

伊、仏、英11勝(アスタルテ賞・仏^{G1}、エミリオトゥラティ賞・伊^{G2}、セルジオクマニ賞・伊^{G3}、エウピリ賞・伊^L、ヴィットリオオクレスピ賞・伊^L、FIA欧州生産者基金賞・伊^L、ビエトロベッセーロ賞・伊^L)、05年輸入、21年用途変更ジターナ(06 前出)

マルセリーナ(08 牝父ディーブインパクト)中央4勝(桜花賞^{G1}、マーメイドS^{GIII}、阪神牝馬S^{GII}2着、ヴィクトリアマイル^{G1}3着)、ヒートオンビート(目黒記念^{GIII})、ラストドラフト(京成杯^{GIII})の母

グランデツァ(09 牝父アグネスタキオン)中央5勝(スプリングS^{GII}、七夕賞^{GIII}、札幌2歳S^{GIII}、マイルチャンピオンシップ^{G1}3着)、種牡馬マルチスクリーン(14 牝父スクリーンヒーロー)不出走、シカゴスティング(フェニックス賞^{GII}、ファンタジーS^{GIII}3着)の母

マルディランダ(20 牝父イスラボニータ)中央4勝(佐渡S、オーロC・L3着) ㊟

伏兵たちが、出世レースの上位独占

一昨年はソールオリエン스가皐月賞へのステップとし、昨年はのちのダービー馬と菊花賞馬が1、2着を占めた京成杯。俄然、注目度が高まった今年はジャスティンパレスの半弟にあたるキングノジョーと、デビュー2戦目の未勝利戦を5馬身差で圧勝したバーティハーンが3倍台のオッズで1、2番人気を分け、葉牡丹賞の2着馬ゲルチユタールが2頭に次ぐ支持を集めた。しかし中心勢力と目された面々は揃って敗れ、人気薄の伏兵が上位を独占。単勝や3連単などの各式別で、レース史上の最高払戻金額が記録された波乱劇の主役を演じたのは、11番人気のニシノエージェントだった。

波乱の呼び水となったのはハイペーアの展開。横並びの先行争いから抜け出した2頭、ガルダイアとタイセイリコルドが雁行して飛ばしたレースは、前半1000mの通過が58秒3と非常に速い流れで進んだ。キングノジョーは少し離れた3番手につけ、ゲルチユタールは追いつけ気味の手応えで中団を追走。一方、ニシノエージェントの津村明秀騎手はバーティハーンを2馬身ほど前に見ながら、後方4番手で末脚を温存した。

4コーナーでは失速した前の2頭を呑み込み、キングノジョーが早くも先頭へ。後続の各馬も追撃にかり、津村騎手も楽な手応えを保ったまま、先行勢の背後へ忍び寄る。迎えた直線、坂上で力尽きたキングノジョーを、早めに2番手に上がったドラゴンブーストがかわしたものの、ニシノエージェントはこれを凌駕する末脚を発揮。最後方から追い込んだミニトランザットの強襲も抑えて勝利を飾った。

新馬戦の2着を皮切りにしばらく惜敗の足踏みを重ねた本馬だが、当初の先行から徐々に脚質の幅を広げ、デビュー4戦目に初勝利。余勢を駆って重賞に挑んだこの日は、ペースを見越して末脚勝負に構えた鞍上の判断も奏功し、展開も追い風に「出世レース」を鮮やかに差し切った。前2年間の勝ち馬と同様、今後は皐月賞へ直行。父イスラボニータとの父仔制覇に挑む。